

2) 第二日目 苫小牧上陸 H19年6月19日(火) 快晴

- ・外洋フェリーでは航海中車両甲板に入ることができないとは知らず、最少の持ち物で船室に出てしまった。早朝秋田港に寄航し停泊中に車両甲板がopenすると言うのでそこを狙い15:00前に起床したがまだ海上を快走中。6:00前にやっと秋田港に入港し接岸、接岸を見ているうちに車両甲板がまた閉鎖されてしまい立ち入り禁止に。…大型トラック、トレーラーの出し入れの時は甲板上は危険なため、車両甲板には入れない規則になっている。係員に懇願し係員立会いのもと甲板に下ろしてもらった。朝食のパン、牛乳、トマト、キュウリなどと、スリッパをget。やっと朝食にありつけ、スリッパで歩き回ることができた。
- ・7:00秋田港を出航、無風快晴の洋上を快走。デッキでパンと牛乳の朝食をとる。レストランの朝食は1000円、ちと高い。
- ・秋田から男鹿半島をまわって一路苫小牧へ。男鹿半島を回る時、左手にまだ雪で白い鳥海山が、右手に男鹿半島の寒風山が見えた。両方とも去年登ったところであり懐かしい思いで眺める。



朝日に輝く鳥海山



苫小牧を目指して

- ・なんと退屈な船旅か！ビデオシアターで映画を見ていたがつまらないので途中で出て船室で横になる。「ただいま竜飛岬を通過中」のアナウンスで目を覚ます。ちょうど12:00。カフェレストランで600円のきつねそばを食す。その後はまた退屈な時間が続く。行く先は晴れている。



ガラガラの船内

- ・17:20予定通り苫小牧港に入港し下船。ものすごく辺鄙な寂しい港。苫小牧は結構大都会かと思っていたがこんなに寂しい町なのか。

- 一瞬唖然としたが落ち着いて調べてみると入港したのは苫小牧東港で、苫小牧市街からは20km近くも東に外れた何も無い松林の中に作られている港だ。さらに、この港を利用するのは私が乗ってきた「新日本海フェリー」だけ、他のフェリーはみんな苫小牧市街にある苫小牧西港を使用していることがわかった。まさか苫小牧港が2つもあるなんて思ってもいなかった。とにかくまずガソリンを補給しなければならぬ。西に向かって20km走り苫小牧市街へ到着、もちろん予想通りの大きな町だった。なにしろ道はものすごく良い、まっすぐで広くて車が少なく、快適なドライブで北海道の第一歩が始まった。
- ・今日予定している宿・道の駅「むかわ四季の館」は私のナビには載っていない、日は傾くし少々焦った。給油したシェルスタンドで尋ねたら「東港の先の鵲川」にあると言う。なんと来た道を30km近くも後戻り、東港を通り越して更に東、鵲川の町でやっと道の駅「むかわ四季の館」を見つけた。もう日は落ちていた。

- ・道の駅「むかわ四季の館」の広い駐車場は車で満杯、後から後から車がやってくる、すごい人気。皆温泉が目的らしい。私はゆっくり温泉に入ってからレストランで一杯を楽しみに来たのだが、レストラン(といっても場末の食堂といった感じ)は8:00までとのこと。苫小牧までガソリンを入りに往復したり道の駅を探したりしてもう7:00をまわっている。
- ・あわてて(ダサイ)レストランで生ビールと鯖の味噌煮定食で今日の夕食を済ませた。(970円)
- ・ゆっくり温泉に浸り、北海道での第一泊(車内)の準備。



道の駅「むかわ四季の館」

さて何処に止めるか、場所探し。広い駐車場をうろろう。明日は北海道で最初の登山「樽前山」だ。リュックの準備をして横になった。おやすみ。

- * 北海道の初日は、上陸してから慌しく走り回り、予想外にダサイ道の駅で始まった。たぶんこれからもこんな調子が続くのだろう。とにかく慣れることだ。

- ** 温泉は「ナトリウム強温泉」とあるが、どってことない。500円も払って何でこんなにおおぜいの人が入りにくるのだろうか？